

令和 5 年度丹波篠山市在宅医療・介護連携推進事業報告

【目標】

介護や医療を必要とする高齢者等とその家族が、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしが続けられるよう、医療・介護の関係機関が連携し、多職種協働による在宅医療・介護を継続的・包括的に提供できる。

【具体的項目】

- (1) 本人が望む人生が最期まで過ごせる様に「人生会議」や「わたしの大事をつなぐノート（エンディングノート）」の普及啓発を行う。
- (2) 医療と介護の連携を図るため、「篠山つながり手帳」の運用調査評価を継続しながら活用していくとともに、新しい連携ツールとして、丹波篠山市医師会が推奨する「ヘルスケアパスポート」の実証実験に協力していく。
- (3) 顔の見える関係づくりとして、多職種連携会議「この指と～まれ」を年3回開催する。

【実施内容】

日 時	内 容	備 考
R5年5/18	第1回多職種連携会議「この指と～まれ」開催	医療からの人生会議 講師：訪問看護師、医師、管理栄養士 参加者：74人
R5年8/4	第1回丹波篠山市在宅医療・介護連携推進協議会開催	・R5年度計画案の検討 ・「ヘルスケアパスポート」の実証実施について
R5年8月	「人生会議」「わたしの大事をつなぐノート（エンディングノート）」を医療機関・市役所等に配置開始	全病院・診療所、市役所本庁・支所に配置 約300冊
R5年9月	丹波圏域退院時調整ルール状況調査	3日以内の直前調整は減少し、退院に向けてのカンファレンスは増加
R5年9/21	第2回多職種連携会議「この指と～まれ」開催	薬剤師からみた医療介護連携 講師：薬剤師 参加者：50人
R5年11月	篠山つながり手帳運用調査	必要な人には上手く活用できている。一方、各機関の業務負担がある。
R5年12/5	丹波圏域退院時調整ルール推進検討会	
R6年1/18	第3回多職種連携会議「この指と～まれ」	退院時調整ルールについて事例検討 参加者：46人
R6年3/8	第2回丹波篠山市在宅医療・介護連携推進協議会開催	・ヘルスケアパスポートの実証実施の現状報告 ・令和5年度事業報告

*わたしの大事をつなぐノートについては、R3年度より2,200冊印刷し、R6.2末までに2,000冊配布している。